

●事例紹介●

鳥取大学の派遣留学推進への取組

若良二

(鳥取大学教授・国際交流センター長)

国策として長年続けられてきた「留学生受入れ一〇万人計画」が昨年ようやく達成されました。その後、多くの大学では、ポスト一〇万人計画に関心が集まるようになりました。このたび、文部科学省より、そのひとつの政策として位置づけられるであろう「長期留学生派遣制度」の新設や「短期留学生推進制度」の充実及び「先導的留学生交流プログラム支援制度」の拡充などが示されました。これらはいずれも、我が国の留学生政策を従来の「受入れ重視型」から、より派遣を重視した「相互交流型」へと大きくシフトすることを示すものであります。

しかしながら、多くの大学では、長年「受入れ重視型」であった留学生政策の弊害からか、学生派遣に関するノウハウの蓄積、教職員の意識及び組織的対応はもとより、学

生から事務職員、そして教員に至るまで、「派遣重視型」の相互交流へ、即座には対応しにくい状況にあるのが現状ではないでしょうか？

このような実情は、鳥取大学においても例外ではなく、平成一五年四月に設置された「留学生センター」は外国人留学生を対象とした日本語の授業や生活指導など、外国人留学生へのサポート業務がその中心であったように思われます。また、留学生課も同様に外国人留学生の出入国や奨学金受給に関する業務に多くの時間が費やされ、その業務量も日本人学生の留学に関するものとは、比べものにならないほどであったように思われます。多くの大学構成員が、「留学生センター」は外国人留学生のためのセンターであるろうとの認識が強く、これが、日本人学生自身が留学相談

表1 韓国文化体験プログラム概要

日程	事項
8/9(月)	米子空港 → 仁川国際空港 → 春川 (江原大学校寄宿舎泊)
8/10(火)	韓国の歴史、キャンパスツアー (博物館・図書館など)、春川国際親善協会招待歓迎会
8/11(水)	韓国語講座、華川 (ファッション) 平和のダム観光
8/12(木)	韓国経済について、春川観光ツアー (1) (博物館・冬のソナタ撮影場所など)
8/13(金)	韓国の食文化、春川観光ツアー (2) (ソヤンダム、チョンピョン寺など)
8/14(土)	韓国の文化、春川観光ツアー (3) (ナミソン・冬のソナタ撮影場所など)、春川国際親善協会招待歓送会
8/15(日)	春川 → ソウル (列車、地下鉄、バス利用) ソウル観光ツアー (ミョンドン、インサドン、ロッテワールドなど)
8/16(月)	仁川国際空港 → 米子空港

それぞれ二〇名程度を、さらに、平成一六年には韓国の江原大学校及び中国の東北農業大学にそれぞれ五名程度の学生を派遣しております(表1、表2)。

平成一六年二月、鳥取大学へ学術交流協定校の一つである韓国・江原道春川市にある江原大学校より冬季休業中を利用した短期語学研修実施の依頼を受け、初の試みとして二週間にわたるプログラムを実施しました。鳥取大学にとっては、初の試みであること、降雪、強風が予想される冬季での実施であることなど、様々な困難はありましたが、

表2 中国文化体験プログラム概要

日程	事項
8/23(月)	新潟空港 → ハルビン空港、東北農業大学到着、構内見学、歓迎会
8/24(火)	AM 中国語授業 (1)「中国語の発音入門」 PM 中国文化
	AM 中国語授業 (2)「挨拶、自己紹介」 PM 中国文化
8/25(水)	AM 中国語授業 (3)「道を尋ねる、電話をかける」
	PM 中国文化
8/26(木)	AM 中国語授業 (4)「天気について」 PM 中国文化
8/27(金)	AM 中国語授業 (5)「レストランにて」 PM 中国文化
8/28(土)	ハルビン市内見学
8/29(日)	AM 中国語授業 (6)「買い物にて」 PM 中国文化
8/30(月)	AM 中国語授業 (7)「銀行にて」 PM 中国文化
8/31(火)	AM 中国語授業 (8)「ホテルにて」 PM 中国文化
9/1(水)	AM 中国語授業 (9)「切符を買う」 PM 中国文化
9/2(木)	AM 中国語授業 (10)「留学期間での中国語の成果について」
9/3(金)	PM 中国文化
9/4(土)	「牧畜園、見学
9/5(日)	「牧畜園、見学
9/6(月)	「牧畜園、見学、買い物、ハルビン空港 → 新潟空港

江原大学校から二〇名の学生の参加を得て、成功裡に実施することができました。この間、鳥取大学の一般学生の協力と地域住民の支援を受けたことは言うまでもありません

のために「留学生センター」を利用しない一つの原因であったかもしれない。

何はさておき、「受入れ重視」から「派遣を重視した相互交流」へと留学生政策の在り方が移っていく中、鳥取大学としても、いかに派遣留学生を増やしていくのかが、大きな課題となってきました。このような政策の変更は、例えば、派遣に関わる危機管理や留学中の学生に対する生活・学業の状況把握と指導など、従来の「受入れ重視型」とは異なる様々な問題を生ずることになり、大学としての新たな対応が求められることとなります。

このような状況の中、鳥取大学としては、学生を派遣するに際して何より重要なことは、学生に留学の意義と目的及びその効果などについて学生個人が十分に理解した上で、留学に意欲的になることであるとの認識に立ち、学生が、単なる短期の語学留学に留まることなく、単位や学位の取得を目指す研究留学を積極的に考えることができるよう意欲的な取組を実施しております。

研究留学においては、十分な語学能力を身に付けていることが重要であります。特に、韓国、中国のような非英語圏への留学においては、日常生活はもとより、授業や研究に耐えられる語学能力をいかに短期間で身に付けられるか? ということが、留学生の派遣における最大の問題と

なります。

日本海に面し、韓国・中国とも地理的に近い位置にある鳥取県は、古くより大陸との関わりも強く、人口六〇余万の人口最小県でありながら、韓国・ソウルへの定期便を持ち、また、これはよく知られてはいませんが、県内の市町村に配置されている韓国人の国際交流員は全国最多となっています。このような地理的、歴史的な環境を背景にして、鳥取大学は、英語圏以外では特に、中国・韓国との交流と留学生派遣に力を入れています。

短期語学研修の実施

短期語学研修は、私立大学を中心に多くの大学で実施されていることでしょう。ただ、そのほとんどは夏季休業を利用して英語圏に派遣するものが多く、英語圏以外の派遣は、英語圏と比べて必ずしも多くはないものと思われま。同時に、この期間を使った外国人学生に対する日本語及び日本文化研修の実施も我が国では、未だ一般的とは言えないのが現状ではないでしょうか。鳥取大学も夏季の短期語学研修としてイギリスのノッティンガム大学とカナダのウオーターloo大学に、四週間程度のプログラムで、そ

が、この語学研修の実施が鳥取大学の学生の国際交流意識に与えた影響は計り知れないものがあります。プログラムの開発に当たっては、国際交流センター教員や国際交流課職員をはじめ、学生の国際交流サークルであるIFA（国際交流会）の協力も大きな力となりました（表3）。

同じ年の夏季休業期間中には、再び、江原大学校と中国・貴州省・貴陽市の貴州大学からの参加も得て、二週間の日程で短期語学研修を実施しました（写真1）。

短期語学研修への参加者によるプログラム終了後のアンケート調査によれば、多くの参加者が非常に満足しており、素晴らしいプログラムであるとの評価と同時に、鳥取大学の学生や教職員そして地域への感謝の気持ちも述べられていました。

わずか二週間という短期の語学研修ではありますが、実際に外国から学生を招いて語学研修を実施するためには、学生はもとより、教員や職員をはじめ、地域住民など多くの協力が不可欠です。

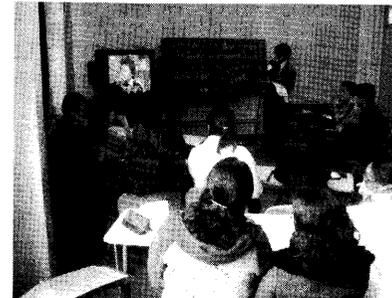


写真1 授業サブカルチャーの交流

表3 江原大学校短期日本語研修プログラム概要

日程	事項
2/2(月)	米子空港着（自然の家泊）
2/3(火)	開講式、オリエンテーション、学内ツアー、学長・鳥取県知事・鳥取市長表敬訪問、鳥取市内観光ツアー、歓迎パーティー（〆泊）
2/4(水)	日本語（1）[A：日本と韓国の食文化・食生活、B：自己紹介・私の一日]、IFA学生との交流（〆泊）
2/5(木)	日本語（2）[A：日本と韓国の住宅事情、B：食べ物] コンピュータ、IFA学生との交流（〆泊）
2/6(金)	日本語（3）[A：大学生生活・若者の価値観、B：日本の家と生活]、文化遺産巡り、学生との交流（〆泊）
2/7(土)	ホストファミリーとの交流（ホームステイ）
2/8(日)	ホストファミリーとの交流（〆）
2/9(月)	日本語（4）[A/B：サブカルチャーの交流]、コンピュータ（〆）
2/10(火)	日本語（5）[A：日本と韓国のリサイクル事情、B：プレゼント]、紙すき体験（〆）
2/11(水)	日本語（6）、（7）[A：調査準備・インタビュー練習、B：体験調査]（〆）
2/12(木)	日本語（8）、（9）[A：調査・結果集計、B：話し合い・まとめ]（大山共同研修所泊）
2/13(金)	スキー研修（〆泊）
2/14(土)	日本語（10）、（11）調査のまとめ、発表（〆泊）
2/15(日)	施設見学（とっとり花回廊等）（〆泊）
2/16(月)	閉講式、米子空港発

このような幅広い協力のネットワークを構築してこそ、真に素晴らしいプログラムが実現されるといえるのではないのでしょうか？ この点が学生を短期語学研修に派遣する場合と根本的に異なる点であり、学生の留学意欲の向上・地域との連携強化・プログラム開発を通じたノウハウの蓄積と関係組織との連携強化など、多くの副産物を生み、これらが有形・無形なものとして今後、鳥取大学における国際交流活動の大きな財産になっていきつつあるように思われます。

韓国・中国の大学視察の実施

一般的にいずれの大学でもそうであろうと思われるのが、鳥取大学においても欧米を中心とした英語圏への留学を希望する学生が非英語圏への留学希望者と比べて圧倒的に多いのが現状です。これは、英語が国際語として共通認識されつつあることや中学から慣れ親しんでいること、さらに、アメリカを中心とした現在の世界情勢を見れば、若い学生にとっては、その思いが英語圏に向くことは、致し方の無いことであろうと思われるます。

しかしながら、今後の我が国の在り方や世界情勢を考えると、英語を中心としながらも、常に韓国・中国を視野

に留めておくことは、重要なことではないでしょうか？ このような認識のもとに、鳥取大学としては、韓国・中国への留学を積極的に推進しています。

その中で、韓国・中国への留学を妨げるものとして、一つは、語学能力の問題があります。当然ながら、大学入学以前に韓国語や中国語を学習した学生はほとんどいない上、これらの言語での授業に耐えられるだけの語学能力を有している学生は皆無に近いのが現状です。

さらに、学生たちの保護者も同じ留学するなら英語圏への留学を勧め、韓国・中国への留学は認めないという場合も数多くあるのが現状です。これは韓国・中国に対するイメージや先入観によるものが強く、果たしてこれらの国の大学の実情をどこまで知った上での判断だろうか？ ということを私自身、いつも疑問に思っていました。恐らく、学生も保護者も韓国・中国の大学の実情についてほとんど何も知らないまま、留学を考えていたのではないのでしょうか？

そこで、鳥取大学では、まず学生が韓国の大学を実際に体験し、自分自身の目でその現状を理解することを目的として、平成一六年三月に韓国の学術交流協定校四校を一〇名の学生が一週間の予定で視察しました（表4）。

各大学の暖かい、心のこもったもてなしと、初めてみる

表5 留学予備教育コース開講案内及び時間割

英語、中国語、韓国語のネイティブスピーカーによる講義形式のコースです！
国際交流センターでは、英語圏、中国語圏、韓国の大学（主に鳥取大学の学術交流協定校）への留学を真剣に考えている学生のために、英語、中国語、韓国語のネイティブスピーカーによる留学準備のための特別コースを開講します。

	月	火	水	木	金
16:20—17:20	英	韓	英	英	Free
17:30—18:30	中	英	中	韓	Talk

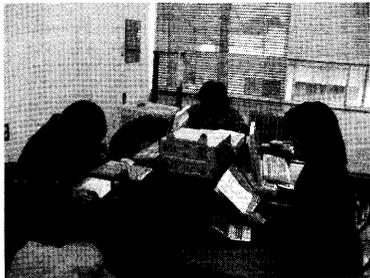


写真2 ネイティブ講師とのフリートーク

た学生が出てきていることも事実であります。これら鳥取大学としての派遣留学推進への取組が序々ではあります。が、着実に効果を上げつつあることを実感しております。このような状況の中、語学能力の向上をより着実なものにしたいとの思いで、将来の留学を考えている学生を対象とした「留学予備教育コース」（表5、写真2）を平成一六年一〇月より実施しております。

これは、特に留学時において、授業が理解できる語学能力の修得を目標としたものであり、英語は月曜日から金曜日まで毎日、韓国語・中国語については隔日で交互開講とし、いずれも正規の授業が終わった四時三〇分より各一時間実施しています。意欲があれば、英語を中心に、韓国語・中国語の三か国語の受講が可能ないようにプログラムを工夫しました。授業は全てネイティブの先生を非常勤で雇用し、できるだけ日本語を使わないよう注意しながら実施しております。いずれの言語についても金曜日は、フリートークとして、ネイティブの留学生の参加も募り、聞くばかりでなく、話すこともできる時間を設定いたしました。

留学予備教育コースのオリエンテーションには、七〇名と、思いもかけないほど多くの学生が集まりました。「このコースはカリキュラムで決められた押し付け授業ではありません。皆さんが自らの能力を高めようとの思いで受講する授業であることを忘れないで、いつも留学を意識しながら諦めることなく最後まで続けてください」とエールを送りました。韓国語、中国語にもそれぞれ一〇名程度の参加者がありました。四か月たつ現在でも、英語で四〇名程度、韓国語・中国語においてはほとんど脱落者がいない状態で授業が進められており、本当に嬉しく、楽しそうに、そして懸命に学習している学生たちが心より頼もしく見え

表4 韓国の大学視察日程概要

日程	事項
3/14(日)	関西空港 → 釜山空港
3/15(月)	釜慶大学校視察・体験訪問 学内ツアー・学生との交流
3/16(火)	AM 釜慶大学校視察・体験訪問 学内ツアー・学生との交流 PM 大田市へ移動
3/17(水)	AM 忠南大学校視察・体験訪問 学内ツアー・学生との交流 PM 春川市へ移動
3/18(木)	江原大学校視察・体験訪問 学内ツアー・学生との交流
3/19(金)	AM 江原大学校視察・体験訪問 学内ツアー・学生との交流 PM ソウルへ移動
3/20(土)	仁川空港 → 米子空港

韓国の大学の広大なキャンパスと学生サービスの素晴らしさに目を見張る学生の姿が印象的でした。その効果があつてかどうか、現在、韓国への留学に備えて懸命に韓国語を学んでいる学生が数多く出てきていますが、これは、まさに「百聞は一見にしかず」効果とでも言うものではないでしょうか！ 今春にも、韓国及び中国の学術交流協定校への視察旅行を計画しております。

このような大学視察を目的とした外国旅行の紹介をしたところ、嬉しいことに、放送大学鳥取学習センターの学生からも、是非同行させて欲しいとの声があつたことも付け

加えておきます。

留学予備教育コースの実施

日本人学生の留学、特に研究留学を推進していくためには、学生への情報提供が大切なことは言うまでもありませんが、学生にとつての最大の問題は、何と云っても語学能力であることは明らかです。この点に対する十分なサポートが無ければ、研究留学生を派遣することは極めて困難となります。特に、非英語圏への留学を推進する場合は、なおさらです。

勿論、語学能力の修得は本人の留学に対する高いモチベーションと継続的な努力によって、自らが獲得するものであることは当然ですが、特に、鳥取大学のような地方都市にある小規模な大学では、大学としての積極的な支援が必要であると考えられます。学生の韓国・中国への留学を推進するためには、なおさらその感を強くします。

留学への取組の効果が現れるには、おそらく数年程度の期間が必要でしょう。鳥取大学としては、韓国・中国への留学推進の実績は中期計画程度のタイムスパンで評価することになるでしょうが、最近、これら両国への留学相談が増えたこと、及び実際に留学し、単位の取得にまで至っ

図 韓国・釜慶大学校とのDDPの新聞記事

日本経済新聞
2004年(平成16年)12月7日 火曜日 【専載】(20)

5年で日韓ダブル学位

鳥取大学(道上正煥学長)と韓国・釜慶大学校(趙鍾泰=モク・ヨンス=総長)が6日、鳥取市湖山町南4丁目の鳥取大で、学生が両大学の学位(学士)を取得することができる複数学位制「ダブル・ディグリー・プログラム(DDP)」の覚書に調印した。有効期間は5年間。日韓の大学間でDDPを採用するのは全国で初めてという。

締結したDDPは、学生が両大学で計5年間の学習を積み、2つ(両大学)の学位を取得できる制度。受け入れ大学は、留学に必要な入学科や授業料を免除する。鳥取側は全学部(の学生を対象に来年4月から実施。対象学生は、3年間鳥取大で学び、2年間釜慶大学校に留学する。

釜慶大学校は経営学や水産科学、人文社会科学、海洋環境科学など6学部からなり鳥取大の学生はいずれの学部も希望が可能。4、5人程度の派遣を考慮しており、両大学ともに既に何人か希望者がいるという。DDPを実施する国内の大



覚書に調印した後、握手を交わす陸総長(左)と道上学長(右)。6日、鳥取市の鳥取大学

学は英語圏の大学を中心に取り組む私立がいくつかあるが国立法人では珍しいという。

覚書に調印した陸総長は「国際協力を強めるためにはDDPが必要。(鳥取は)素晴らしい研究センターを備えているので、学生たちは幅広く学べる」と述べ、道上学長は「鳥取と一番近い韓国の大学を選んだ。学習意欲のモチベーションを上げ、国際的に働ける人材を育てるのが狙い」と期待を込めた。

全国初、鳥取大と釜慶大が覚書

ました。
詳細については、鳥取大学国際交流センターのホームページをご覧ください。
更なる取組

留学意欲のある学生の育成と専門性の強化への支援、さらに今後、一層強く求められるであろう国際社会での業務

遂行能力の高揚を目的として、鳥取大学は、平成一六年一二月韓国の学術交流協定校の一つである釜慶大学校とDDP(双学位取得制度)に関する覚書を締結しました。英語圏の大学とDDPを実施している大学は、私立大学を中心に幾つかありますが、韓国の大学との締結はこれまでほとんど無いのではないでしょうか? 英語圏以上に実施上の困難さが予想される韓国の大学とのDDP締結は、韓国を重視する鳥取大学の国際交流における戦略の一つの表れでもあります(図)。この新しい取組により、鳥取大学の学生には、五年間で日本と韓国の二つの大学から学位が取得できるという道が開かれました。これは、同一分野は言うに及ばず、語学能力と勉強意欲があれば、異分野における学位の取得も可能にするものであります。学生の国際感覚、キャリア形成及び今後、国際社会で真に国際人として活躍するために必要な多くのスキルの修得につながるものと期待されています。

鳥取大学としては、現在、DDP締結校の拡大を模索しながら、DDPを実現する学生の育成に努めています。将来、国連機関をはじめ、国際的環境の中で多くの卒業生が活躍する姿に夢を馳せながら派遣留学生推進への新しい取組に向けて更なる努力を続けております。